

さらなる時代の扉をひらけ  
札幌学院大学  
創立50周年



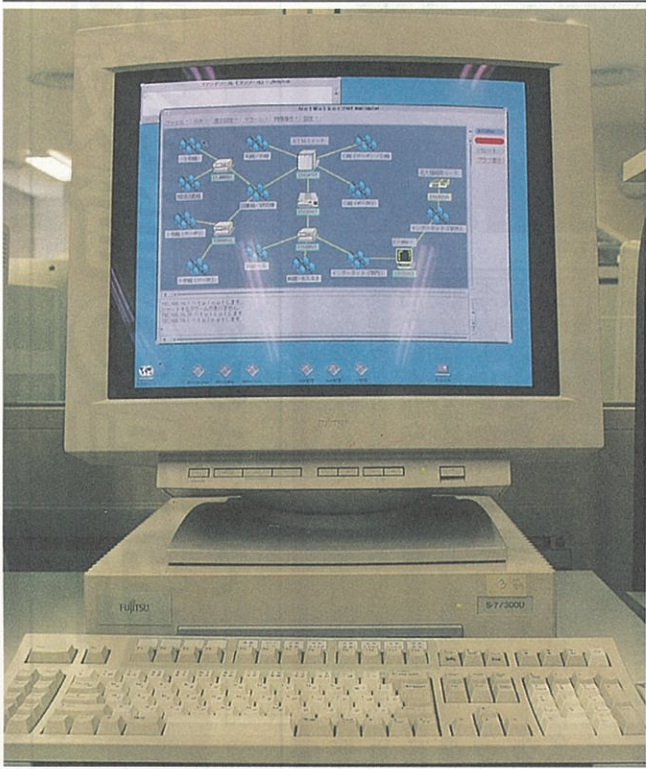
Sapporo Gakuin University

# 学園広報

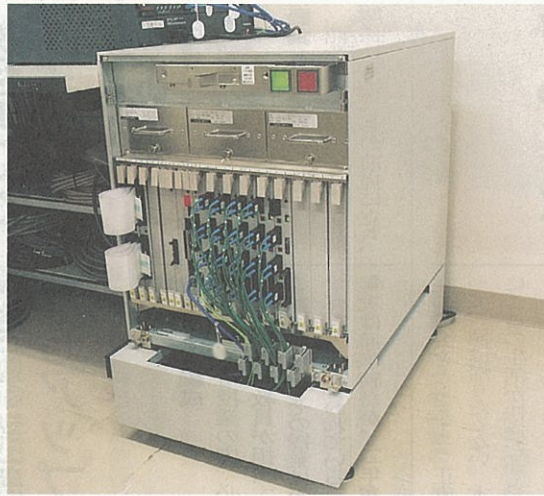
1996. 12. 3 No.65

編集・発行 札幌学院大学 企画調査室  
〒069 北海道江別市文京台11番地  
電話 (011)386-8111

## 新学内LAN装置が運用開始



学内ネットワークを安定運用するためのネットワーク管理装置



学内ネットワークの中心装置 ATM Switch

昨年度、文部省の私立学校施設整備補助金の第二次補正予算の交付を受けた新学内LAN(構内網)は、本年三月にケーブルの敷設及び装置の設置工事が竣工した。以来環境構築に向け作業を開始していたが、これも八月に完了し九月より正式に運用を開始している。

今回設置したLANは、最先端のATM(非同期転送モード)技術を採用しており、バックボーンネットワークの通信速度は15Mbpsと従来のLANの約十五倍にあたる高速化がはかられている。ATMはLANとWAN(広域網)との接続がシームレスにできるなど拡張性に優れており、二十一世紀に普及するB-ISDN(広帯域総合デジタル通信網)の中核となる転送/交換技術として現在最も期待されている。

## マルチメディア時代 情報基盤の整備を推進

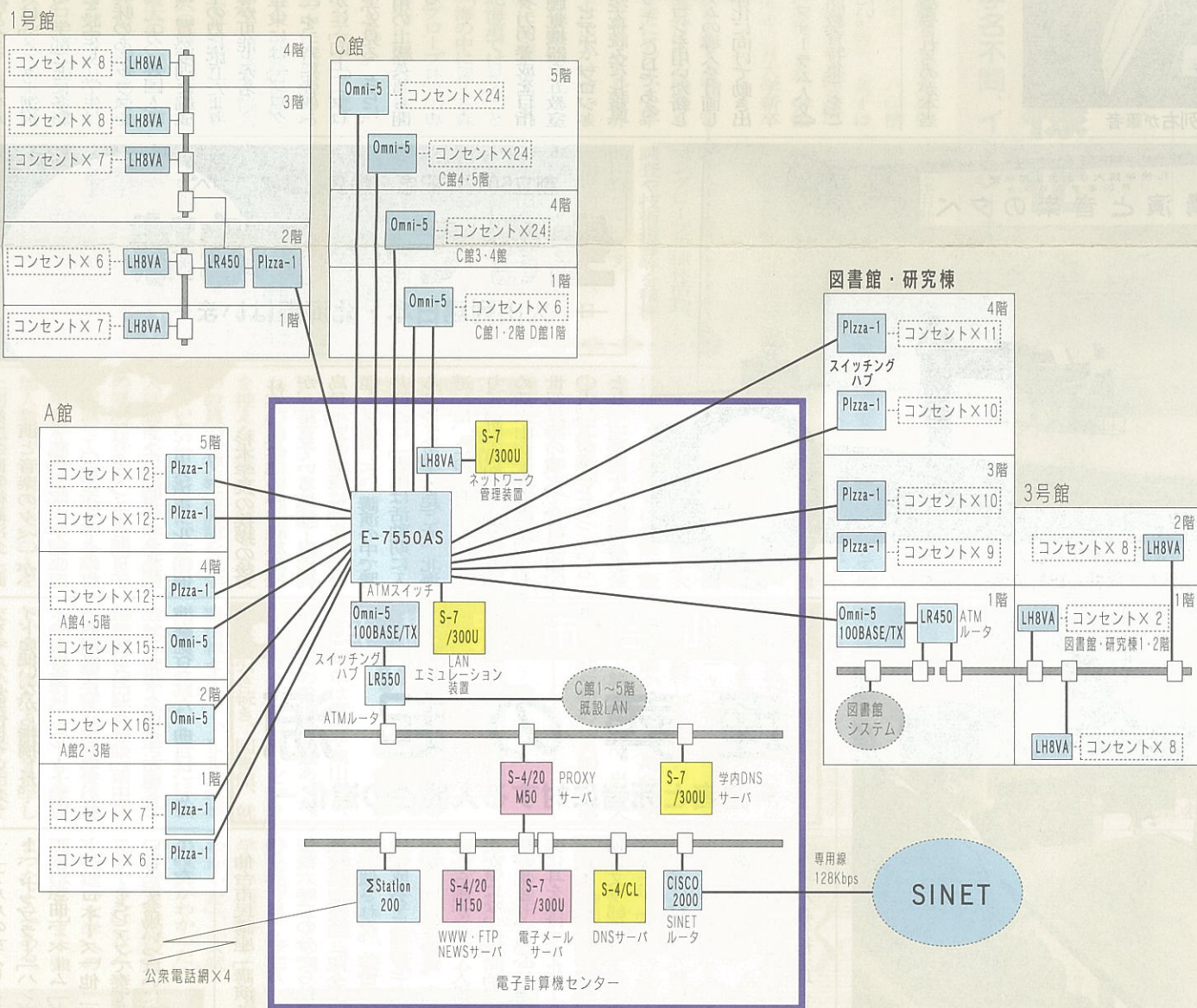
本学では、従来よりインターネット方式のLANが張られていたが、敷設箇所が一部の棟に限られていた。今回これを

全棟に張り巡らし研究室を中心に二・五二個の情報コンセントが設置された。これにより、各室からインターネットの基機能である電子メール、WWW、

FTP、Telnet、NetNewsなどが利用できるようになり、研究を援手する手段として大いに期待されている。一方、教育面においては、現在電子計算機センターに設置されている一部コンピュータからの利用に限られていたが、次年度に開講が予定されている新教育カリキュラムの情報教育実施に向けてコンピュータのリプレースが検討されており、これが実現すると多くの学生がこのLANを利用

できるようになる。今回の学内LAN装置はあくまでも基盤整備の一貫で設置されたものであり、現在のところ大学側から提供される情報サービスは殆どない。しかし、今後ホームページが立ち上がるなど、大学関係者の諸活動をサポートするシステムがこのLAN上で開発されることが期待されている。

### 新学内LANシステム構成図



昨年4月に着工した新校舎(E館・F館・G館)は、現在外装工事、内装工事ともほぼ完成、既に最終段階に入った。来春からは、いよいよ利用開始となる。(写真は9月末現在)

## 待望の新校舎 デビュー間近



'97(平成9)年度

### 一般入学試験日程

学部・学科	出願期間	試験日	試験場	合格発表日
人文学部人間科学科	1月8日(水)~ 1月20日(月)	2月7日(金)	本学	2月25日(火)
商学部第二部商学科		2月8日(土)	青森	
法学部法律学科		2月9日(日)	仙台	
経済学部経済学科		2月10日(月)	東京	
人文学部英語英米文学科		2月11日(火)	大阪	
社会情報学部社会情報学科	2月25日(火)~ 3月3日(月)	3月6日(木)	本学	3月10日(月)
商学部第一部商学科				
商学部第二部商学科 (第二期試験)				

### 外国人留学生入学試験日程

学部・学科	出願期間	試験日	試験場	合格発表日
商学部第二部商学科を 除く全学部・学科	12月10日(火)~ 12月19日(木)	1月23日(木)	本学	1月28日(火)

# 英語教育の刷新

## 21世紀をめざして



真剣にリスニングに取り組む学生

全学部の学生を対象にした「英語新カリキュラム」が、今春よりスタートした。内外の英語教育の動向を押さえるながら、本学の学生に適した独自のカリキュラム編成を心掛けてきた。これはここ数年、英語英米文

### 教室にAV機器設置 リスニング力もアップ

学科で検討を積み重ねてきた成果の現れである。以下、その特徴を紹介してみよう。

**語彙・リスニング**  
語彙力と英語力とは、相関関係にある。この前提に立ち

らは半期履修となる。日本人教員のクラスは「メニュー選択制」に変わる。学部ごとに多彩な授業内容を設定し、学生はその中から興味のあるクラスを選択できる。一方、外国人教員のクラスは、習熟度別に編成される。学生の力に応じ、より細やかな指導が可能となる。

また、学年末には「プログレス・テスト」を二斉に実施し、英語力がいかに「向上」(プログレス)したかを見る。さらに、三、四年次用の上級英語も開設予定である。

### 視聴覚機器

リスニング力の養成を目指すため、視聴覚機器を五教室に設置した。ビデオ・プロジェクト、英語字幕機、ビデオ・デック、CDである。さらに、パソコンを用いた新しい学習システムの導入を計画しており、具体化に向けて動き出している。

## PLUリポート 日本を離れて生活してみる

人文学部英語英米文学科2年 金沢潤吉

PLUは、韓国、台湾、タイ、メキシコ、コロンビア、ロシア、スイス、スペインからの留学生など、本当に国際色豊かである。来る前から予想していたものの、自分の会話力の差に圧倒されっぱなしだった。けれど、僕なりに必死に伝えたいと願う気持ちが徐々に相手に伝わっていき、圧倒されていた気持ちが次第に自信へと変わった。今では電話、英語で電話するのは本当に大変だが、恐れて何もしないより、失敗してもそれを弾みとするプラス思考が大事。したり、じつくり友達

と二つのテーマに絞って話した。デートの約束(もちろんOK)をしたりなど、これ程英語に開かれて生活するのは初めてなので、とてもうれしい。

幾度となく、友達とは貴重なものだと感じてきたが、アメリカに着いて以来、これ程痛切に感じたことはなかった。それは日本人同士という「ほげなサイクル」ではなく、英語という一つのコミュニケーションを通じて、世界をまたにかけているような気持ちにしてくれるからだ。例えば放課後や週末には、ホームシックにならなくなる訳もない。今が楽しいからだ。

—CARPE DIEM—  
—SEIZE THE DAY—(現



スイス、韓国、台湾と友達も国際色豊か。後列右が筆者

## 創立50周年記念 講演と音楽の夕べ

# 生きている地球

—火山列島日本・北海道はいま—

第二〇回学術講演会「講演と音楽の夕べ」が、札幌学院大学創立五〇周年記念と銘打って、十月四日午後六時半より札幌市共済ホールで開催された。

杉本学長の挨拶の後、社会情報学部の勝井義雄教授が「生きている地球—火山列島日本・北海道はいま—」と題して講演した。講演の中で勝井教授は「火山は活動期に入ると様々な災害を起す。北海道には、この三月、五四年ぶりに活動を再開した駒ヶ岳を始め活火山が一五もあり、一七世紀以降の噴火で合計二四〇〇人以上が犠牲となっている」として、火山と人の共生のあり



フルートの西田直孝氏とピアノの林絵里氏。円内は講演した勝井義雄社会情報学部教授

方考える必要性についてスライドを使いながら指摘した。

一方音楽は、フルート奏者の西田直孝氏とピアノ奏者の林絵里氏をお迎えし、「西田直孝・フルート名曲選」と題して演奏が行われた。曲目は、ピセーリ「アルルの女よりメヌエット」、ドップラー「ハンガリア田園幻想曲」、ベーム「グラント・ポロネーズ」他二曲で、フルートとピアノで奏される美しい音色が会場いっぱいに広がっていた。



「埋葬の起源—生者と死者に対する人間性の進化—」講演を終った佐倉教授は観客の一人から質問を受け、ロビーで術講演会と同様に、ピセーリ作曲の「アルルの女よりメヌエット」他四曲が演奏された。また

## 仙台市民講座

# 埋葬の起源

—生者と死者に対する人間性の進化—

仙台市民講座「講演と音楽の夕べ」は、十一月一日(金)午後六時三〇分から仙台市戦災復興記念館(記念ホール)で開催された。仙台市民講座は平成六年に開催しており、今回が二回目である。当日は前夜から雨が続き、入場者の出足が気になったが、約二〇〇名程が集まり、熱心に講演と音楽に耳を傾けていた。

杉本学長の挨拶の後、佐倉朔人文学部教授・東京大学医学博士が「埋葬の起源—生者と死者に対する人間性の進化—」と題して、スライドを交えて講演した。

音楽は、西田直孝氏(フルート)、小森谷裕子氏(ピアノ)

## 父母との連帯—段と

### 父母懇談会

去る十月三十一日、本学を会場として、札幌圏での父母懇談会(二年生対象)が開催された。

当日は大学側から、学長・後援会副会長の挨拶に続き、教務部長・学生部長・就職部長・教務課長からそれぞれ、本学の教育目標・大学での勉強の仕方、学生生活、就職活動

成績表の見方について説明があった。続いて、大学紹介のビデオ上映後、各学部の担当教員による個別面談に移った。

個別面談では、学生の成績

「アルルの女よりメヌエット」ドップラー「ハンガリア田園幻想曲」、ベーム「グラント・ポロネーズ」他二曲で、フルートとピアノで奏される美しい音色が会場いっぱいに広がっていた。

熱心に説明を聞く父母=個別面談

「アルルの女よりメヌエット」ドップラー「ハンガリア田園幻想曲」、ベーム「グラント・ポロネーズ」他二曲で、フルートとピアノで奏される美しい音色が会場いっぱいに広がっていた。

## 教職員人事

●任命 (平成八年一月一日付)  
総務教育センター長 佐倉 朔 教授 新任

●昇格 (平成八年十月一日付)  
教授 大瀬 隆

●異動 (平成八年六月二十四日付)  
企画調査課長 夏井 正史 (企画調査係長)  
情報処理課 岡田 由光 (学生課)  
財務課 宮田 昌樹 (教務課)  
学務課 大川 幾子 (教務課)

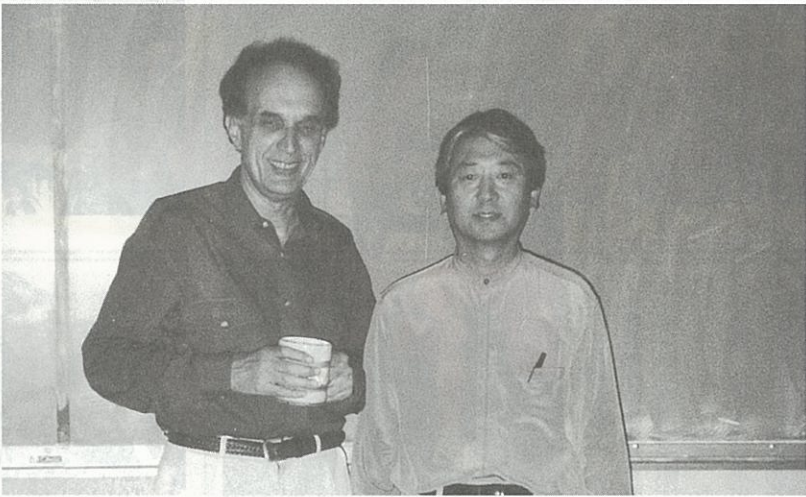
●退職 (平成八年六月二十日付)  
澤田 幸展 (教授)

●就任 (平成八年一月一日付)  
山口 清 (就職課)  
教務課 幸田 泰一 (教務課・第2部)  
教務課・第2部 荒尾 昭一 (図書課)  
学生課 菅野 君恵 (学務課)  
就職課 土田 建次 (情報処理課)  
図書課 岡田 幾子 (教務課)

# 海外レポート 世界トップクラスの大学に躍進したスタンフォード大学に学ぶもの

社会情報学部教授 齊藤 たつき

留研究先を選定するにあたり社会情報学の形成に資する方法論を再考すべく、理論的基礎からサーベイし直して目的で統計学に的を絞る、この分



ブートストラップ法等で著名なエフロン教授とともに

野では世界のトップレベルに位置するスタンフォード大学統計学科のエフロン教授のもとに来て早や五月になる。シリコンバレー発展の牽引力となったスタンフォードが、ハーバードと

しかし、今から数十年前までは金持ちの子弟が行く西部の田舎大学に過ぎなかった。一九四九年学長となったスターリングと後に副学長になったターマンのコンビが「財源の拡大」と「傑出した才能の尖塔化」が飛躍の鍵である。ターマンの哲学「傑出した才能の周りに自然と優秀な研究者、学生が集まり、大学はトップクラスに成長する。広い分野を平凡にカバーするよりは、少数の希有の天才からなる尖塔をつくるべきである」を実践す

るために、それまでおこなっていた教育費ではない」として、コロンバート、グラント等の政府関連の資金に依っている。研究実績が無いとこれらは獲得できないので、そのため特筆すべきは、教授陣の授業ルマは極力低く抑えて研究を充分できるように配慮されていることである。我が大学の将来を考えると、これから何を学ばすべきであるか。詳細は「社会情報」に発表予定

## '96就職戦線 採用方法多様化へ

### 通年採用、大学名不問、インターネット...

本年度の就職戦線は、バブル崩壊後から続いていた企業の採用数の抑制基調から、景気の緩やかな回復を背景とした採用数の拡大が大きな特徴となった。民間調査機関の来春大卒男子の求人倍率は一・八〇倍(前年一・三三倍)、女子は一・四四倍(前年一・四五倍)と六年ぶりに増加。また、労働省の「平成九年三月大学新卒者の採用動向調査(八月一日発表)」では、各企業の採用計画は今春採用実績に対して四九・一%増となっている。本学への求人数で見ると、十月末日現在は一、五四〇



熱心に企業研究をする学生=就職情報センター

件と昨年同期に比し、二二・八%増となっている。業種別では、卸売・小売業、サービス業で前年引き続き伸び率が高かった。今年も金融・保険業、不動産業の伸びが目立つ。地域別では、道内七・四%増、道外一・八%増と道外企業が増えている。この一二年、就職環境が大きく変わってきている。春一括採用型から通年採用への切り替え、職種別採用、出身大学名不問や契約社員制度の導入、人材派遣の活用、インターネットを利用した採用など、大手企業を中心に中堅・中小企業においても新規卒業生の採用方法を多様化する傾向がある。

**おくやみ**

故 奥野信夫 元就職課長

元本学就職課長・文泉会副会長の奥野信夫氏は平成八年十月九日、すい臓がんのため逝去されました。同氏は、昭和四十二年札幌学院大学(現札幌学院大学)開学の年に母校である本学事務職員として赴任し、庶務課長・就職課長・記念事業事務局局長を歴任され、平成七年三月に惜しまれながら定年退職されております。この間、とりわけ就職課長として企業開拓や学生への就職指導で尽力される一方、同窓会の充実強化にも努め、副会長兼事務局局長としてその発展に多大な貢献をされました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## OB通信 マングローブの保全を通じた国際協力への支援活動の推進

琉球大学農学部助教授 馬場 繁幸



「マングローブと私達」のテーマで本学で講演(7月24日)

**<プロフィール>**

昭和47年 3月 札幌学院大学農学部農学専攻卒業  
 昭和52年 3月 東京農工大学大学院農学研究科(修士課程林学専攻)修了  
 昭和60年11月 農学博士(九州大学)  
 現在 琉球大学農学部助教授(生産環境学科森林生産環境学)  
 ボランティア 国際マングローブ生態系協会 事務局次長

沖繩の那覇から往復する二〇万円以上、海外に出かけてもお釣りがくような高い航空運賃の間に、私にとって北海

したのが一九七八(昭和五三)年です。沖繩に来て八年、北海道を離れて二〇余年も経過しました。札幌に帰ることはめったになかったのですが、今年は一回も帰りました。恩師である鮫島和

子先生が定年を迎えられたので、それを理由に札幌学院大学の第一期生が中心となって三月に開催されたパーティへの参加と、「森林と海とのつながり」について、財 札幌国際プラザで八月に講演をしたからです。沖繩には「山ノハギネ、海ノハギネ(山がはげしまうと、海もはげしまう)」との格言があります。この格言は「山の森林資源と海の漁業資源の結び付きの大切さ」、すなわち今北海道で話題になっている「磯焼けの原因」も実に端的に表現しているからです。

門の林学で海外に出る機会も多く、これまでにアジア、太平洋、中南米、アフリカなど世界的に行っています。国際協力事業団(JICA)の熱帯林に関する専門家、特に最近北海道では見ることができない「海の中に聳える森林」であるマングローブの専門家として海外に出かける機会が多くなりました。また、ボランティアで、琉球大学農学部の中に本部のある国際的なNGO(非政府機関)の国際マングローブ生態系協会(一九九六年七月現在、世界七〇カ国に六〇〇人の会員を有する世界最大のマングローブに関するNGO)の事務局次長を任せていることもあり、海外からのマングローブに関する研究を引寄せたり、海外での

## キャンパス見学会 相談コーナーに人気

本年度のキャンパス見学会が八月三十一日(土)に行われた。当見学会は来春に受験を控えた生徒や、父母、高校の教員の方々に諸施設を見学していただくことを目的として、本学の入試制度や入学後の学生生活の疑問に答えることを目的として開催しているもので、今年で九年目を迎えた。本年度の参加人数は、初めて三〇〇人を上回る過去最高の三三八人と

る生徒達が目立った。また、入試問題や卒業アルバムなどを展示した資料コーナーも人気を博していた。資料配布時に配られたアンケートの回答を見ると、「学部学科の内容がよくわかった」、「入試の状況がわかった」、「さまざまな施設を見学できた」など、生徒達の本学への関心はますます強まったようである。



先輩学生からアドバイスを受ける高校生=在学生との相談コーナー

## 北海道文化論 北海道のくらしと社会福祉

一九九六年度の北海道文化論が、八月二十六日より「北海道のくらしと社会福祉」を総合テーマとして開催された。個別のテーマと講師は以下の通りである。8/26「北海道のくらしと社会福祉」松本伊智朗(本学助教授、8/27「地域でくらすということ」佐藤正尊、8/28「文化活動と社会福祉」安井愛美(釧路北の杜舎ソーシヤルワーカー)、8/29「住民運動と施設づくり」鈴木均(特別養護老人ホームかみりあつてつ事務局長、8/30「地域福祉と自治体」津田光輝(本学教授、8/31「北のくらし」北の家族、北の福祉)。

布施昂子(本学教授)。今回の講義では政策的に規定される側面ではなく、社会福祉の実践、運動の側面に重点を置いて、地域のくらしに根ざした諸活動の具体的な姿と可能性を浮き彫りにしたいと考えた。各講師はそれぞれの実践・研究の立場からこの課題に答え、バラエティに富む一週間となった。特に佐藤講師が重度障害者の立場から自らのこれまでの生活と活動を淡々と話される様子は、参加者に大きな感銘を与えたと同時に、テレビ報道を通して公道の多くの人々に同様の感銘を与えた。

# 陸上競技部 全日本大学駅伝 7年連続出場

道内大学の中では圧倒的な強さを誇る陸上競技部は、昨年の「北海道学生陸上競技対校選手権大会」で逃した総合優勝の奪回を目標として練習に励み、臨んだ六月の本大会で見事総合優勝を果たすと共に、各種目で九名が優勝し全国大会への出場権を獲得した。

勢い付いた陸上競技部は、道内の主要大会で各種目の選手が実力を発揮し、上位入賞



4区で好走する片山 純選手(経済学部4年)＝全日本大学駅伝

を果たす活躍を見せた。十月、7年連続の全国出場権を賭けて「第8回北海道大学駅伝対校選手権大会」へ出場。レース序盤は、北大の先行逃げ切りペースとなり本来の力を発揮できず、3区途中で約5分近く引き離される苦しいレース展開となり、8区(アンカー)にタスキが渡った時点で2分18秒と逆転不可能に近いタイム差であった。しかし、8区片山純選手(経済学部4年)が行くことと思つた。

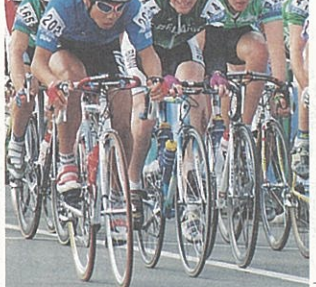
安定した走法で徐々にペースアップ、残り1キロ地点で北大を捕らえ、そのまま抜き去り2位に10秒の差をつけ、劇的な逆転を達成した。

十一月三日、北海道代表として7年連続の出場となった「第28回全日本大学駅伝対校選手権大会」は、全国8地区から23校が出場、熱田神宮(名古屋)から伊勢神宮(伊勢市)までの8区間106.8キロのコースで熱戦が繰り広げられた。1区で22位と出遅れ、その後の区間では各選手が好走したが、全国的には厚く、昨年の記録を上回ったもののベスト記録に届かず23位という結果に終わった。しかし、この結果により選手達の目標意識が変わって行くことと思つた。

# 自転車部 「ツール・ド・北海道」 念願の初出場!



第1ステージ(釧路市)出発時  
沿道で声援を送る同窓生(文泉会釧路支部)の皆さん。疾走する自転車部主将・加藤大介君(写真真中段 赤ヘルメット・ゼッケン201)



ラストステージまで残り大健闘した洞井直也君(写真左・ゼッケン202)

今年で十回目を迎える国内最大規模のサイクルロードレース「ツール・ド・北海道」に、本学自転車部が初出場を果たした。この大会は、学生チームの他、実業団や外国人の有力チームも出場するためレベルが高く、出場獲得が非常に困難とされている。道内の私大での出場は本学のみで、昨年度及び当年度前半における選手権の成績により、日本学生自転車競技連盟の推薦を受け、見事出場権が得られた。

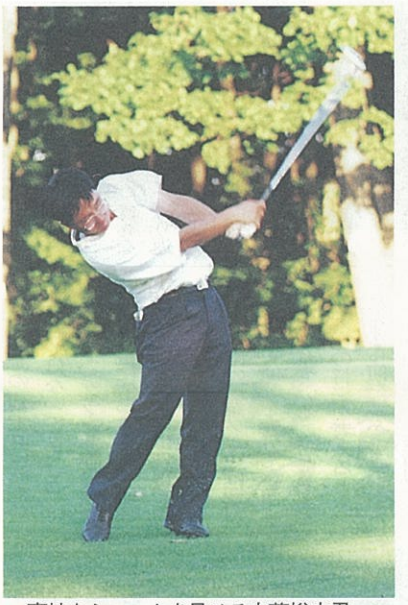
大会は、道東から道央にかけて、約八〇キロを6ステージに分け、七日間(九月三十日～十月六日)で走破する苛酷なレースとなる。

第1ステージでは団体9位につける大健闘をみせたが、連

戦というレースでは経験の浅さを隠せず、四名中三名がタイムオーバーで失格となったが、洞井直也君(経済学部一年)が最後まで残る健闘ぶりを見せた。最終的には、21団体の19位という成績であったが、この経験は選手達にとって次のステップへの大きな励みとなると思われる。

「来年のツール・ド・北海道出場権獲得は勿論、今年の経験を生かし、さらに実力をつけて各大会に望みたい」と熱く決意を述べる部員たちに、来年度に向けての更なる活躍に期待が集まっている。

今回の出場に際し、父母並びに同窓生(釧路・根室・網走・北見・十勝帯広等)における支部の皆さん、多数の方々が現地に駆けつけられ、ご支援、ご声援を賜りましたことに対し、この場を借りて厚くお礼申し上げます。



豪快なショットを見せる内藤裕之君

# ゴルフ部 内藤 裕之君 22年ぶり 学生チャンピオンに 女子も全国大会へ

今年度の「全日本大学駅伝大会」出場に際し、愛知県・三重県・の父母並びに文泉会OB(中部支部)等多数の方々が現地に駆けつけられ、ご支援のご声援を戴いた。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

今年度の大学祭は本学が創立五十周年を迎えたこと、昨年の第二十五回大学祭を区切りとし、新たな一歩を踏み出したという意味を込め「ORIGIN」新たな展開をテーマに十月十日から四日間の日程で開催された。

内藤君は、今年度(金道)学生選手権他、各大会において優勝を総なめにし、注目を集めた内藤君は、今年度(金道)学生選手権に、初出場にもかかわらずトップを切った。

昨年度、金道学生選手権他、各大会において優勝を総なめにし、注目を集めた内藤君は、今年度(金道)学生選手権に、初出場にもかかわらずトップを切った。



「江別七海鳥まつり」山車のペイントに取り組む部員たち

また、北海道女子学生ゴルフ選手権(七月)では、日妻美麻さん(経済学部三年)が優勝、浜田奈美さん(人文学部三年)が2位の好成績を残し、愛知県での日本女子学生ゴルフ選手権(八月)に二人揃って出場する快挙を成し遂げた。

ここ数年で飛躍的に実力をつけてきているゴルフ部であるが、今後もその活躍に注目したい。

# 第26回大学祭 ORIGIN — 新たなる展開 — 創立50周年企画も満載 地域との交流を深めて



露店前で盛りあがる学生たち

企画内容は地域住民との交流を大切に考え、誰もが自由に参加出来る「フリーマーケット」や、「地域住民作品展」など、また最終日には、創立五十周年企画として「文泉台なるご祭り」を開催し、江別鳴子祭り等に参加している四団体による演奏が行われ好評を博した。また二名の著名人の講演会、五十周年企画ライブも行われ秋のキャンパスに賑わいを見せていた。

初日、「オープニング・セレモニー」で幕の上った大学祭は、「君もウハウハビンゴ☆ス」を三目には、大塚中学校、とわの森三愛高校、本学吹奏楽団が参加しての「江別のまち

# 美術部 地域の方々に 感動を与える作品を!

文化系の中でも歴史のある美術部(部員数二十名)は、「自由奔放の中でも美を極めた活動」をスローガンに活発に活動が続けてきている。

近年では「地域との密着」を一つのテーマとし、昨年の江別町通りのシャッターイベントに続き、今年は江別駅前居酒屋「養老乃瀧」のシャッターイベントや「江別北海鳴子まつり」(七月)における山車のペイントに協力し、地域の方々から好評を博した。

また、大学での活動も積極的であり、五月には、北海道工業大学・北星学園大学・札幌学院大学との合同による「私大合同展」を開催し他校との交流を深め、十月の大学祭では作品展不大会及び模擬店の出店を行い学内外の方々に高い評価を得た。さらに十二月、毎年恒例となっている「単独展」を札幌市ギャラリーにて開催する予定となっている。

「積極的な活動を行いながら部員の技術向上させること」を目標として掲げる美術部の今後の活躍に期待したい。



本学創立50周年企画「文泉台なるご祭り」で躍動感あふれるダンスを見せる参加者たち

の音楽会」と題したフラバンド演奏会が催され、美しい音色が多数の聴衆を魅了していた。午後からは芸能レポーターの梨元勝氏を招いての講演が行われた。

最終日の「秋の夜長のビールパーティー」では約七〇名の学生が参加し、恒例のおかまコンテスト等で盛り上がり四日間を締めくくった。

今年も天候にも恵まれ、地域住民の協力と実行委員の熱意により創立五十周年にふさわしい素晴らしい大学祭となった。